

まちづくり活動情報誌

北斎通りまちづくりの会発行 <https://www.hokusai-dori.com>

北斎りまちづくりの会の活動に参加しませんか？
新メンバー募集中です。 連絡先：bureau@hokusai-dori.com



ホームページ



メールアドレス

2024年度の活動案内

北斎通りまちづくりの会では、2024年度に以下の催しを行う予定です。
詳細は当会のホームページをご参照ください。



灯りのフェスティバル

前回の写真

日時：10月12日（土） 場所：大横川親水公園噴水広場
関東大震災や東京大空襲で亡くなられた方々への鎮魂および未来の安心・安全なまちづくりへの願いを込め、キャンドルライトアップイベントを行います。2023年度から環境面に配慮し、灯りをLEDにしました。



ワークショップ・展示

前回の写真

日時：10月26日（土）
場所：すみだ北斎美術館講座室など
地域の歴史や文化にちなんだワークショップや展示を行います。



弘前ねぶた運行

2018年の写真

日時：10月26日（土） 場所：北斎通り
江戸時代に弘前藩津軽家の上屋敷が亀沢にあった由縁より、青森県弘前市から大型の扇ねぶたがやってくる北斎通りを運行します。2020年から2023年まで、新型コロナウイルスの感染防止のため順延していました。



講演会

前回の写真

日時・場所は調整中
地域の歴史や文化にちなんだ講演を行います。2023年度はすみだ北斎美術館前館長の橋本光明さんをお招きし、美術教育や葛飾北斎について話をいただきました。

ねぶた絵描き・トークイベント



2023年10月29日（日）にすみだ北斎美術館講座室にて、弘前ねぶた絵師の三浦吞龍さんによる、ねぶた描きを開催しました。また、弘前ねぶたと亀沢や北斎とのつながりに関するトークを行い、多くの人にご覧いただきました。

亀沢地区建て替え調整協議会

2012年10月からスタートした、亀沢地区建替え調整協議会の活動をご存知ですか。北斎通りまちづくりの会と亀沢連合町会とで立ち上げ、区集合住宅条例や開発指導要綱の対象になる建築計画に対して、事業者、地域住民、専門家が意見交換を行います。地域の住環境を理解し、景観、防災、コミュニティ等の視点から地域にふさわしい建築計画について話し合い、併せて町会加入を促します。

2023年度は5件の建築計画について協議をおこないました。一覧表の左端数字は協議会開催の通し番号を示し、これまでに74件の建築計画について協議会を開催してきました。単身者向けの賃貸住戸が多く建設されてきましたが、近年は子育て世帯向けの賃貸住戸も増加しています。多くの人に亀沢にできるだけ長く住み続けて欲しいと願っています。（岸成行）

<令和5年度に開催した亀沢地区建替え調整協議一覧表>

- 70 2023年4月14日 亀四会館にて開催
（仮称）フジミエステート新築工事（亀沢4-8-1）
賃貸住宅10戸
- 71 2023年7月19日 亀四会館にて開催
（仮称）墨田区亀沢4丁目共同住宅（亀沢4-16-11）
賃貸住戸19戸
- 72 2023年7月27日 亀四会館にて開催
（仮称）グランスウェル計画新築工事（亀沢4-18-6）
賃貸住宅15戸
- 73 2023年10月17日 亀四会館にて開催
（仮称）ウィン共同住宅新築工事（亀沢4-5-8）
賃貸住戸16戸 自宅1戸（1階は店舗を予定）
- 74 2024年3月21日 亀二会館にて開催
（仮称）墨田区亀沢2丁目計画新築工事（亀沢2-23-1）
賃貸住戸27戸

北斎賞の受賞

すみだ北斎美術館への入館者が100万人を超えたことを記念する「勝手に！北斎賞」に「北斎祭り」が選ばれました。

北斎祭りねぶた運行に向けて

今年も前記の予定で北斎祭りが開催されます。コロナ感染拡大に伴い、この数年間は規模を縮小し弘前ねぶたの運行も延期されましたが、今年は5年ぶりに、弘前ねぶた運行が復活する予定です。まちづくりの会では運行に向けて関係機関と協議を進めています。3月11日に北斎通りまちづくりのメンバー10名で墨田区山本亭区長を訪ね、また3月31日には弘前市櫻田宏市長の墨田区来訪に併せて北斎通り並びに亀沢を視察していただき、弘前ねぶた運行の打合せを重ねました。すみだ北斎美術館は江戸時代の弘前藩上屋敷跡地に建設され、毎年の北斎祭りでは弘前市のご協力のもとに金魚ねぶたワークショップなどさまざまな弘前関連イベントを開催しています。（岸成行）



2024年3月11日（月）墨田区山本亭区長に面会



2024年3月31日（日）弘前市櫻田市長に面会

なぜ亀沢に津軽家の屋敷があったのか？

江戸時代、各地の大名は幕府から江戸に屋敷を与えられていました。参勤交代制度により1年おきに江戸で暮らさなければならなかったからです。屋敷には正室や嫡子が人質として暮らしていますし、幕府との連絡なども行われ、時には将軍が訪ねてくる事もありました。ですから、ほとんどの大名屋敷は江戸城の近くに与えられていました。

ところが津軽家だけは隅田川の東側にぼつん。江戸で暮らす大名は、決められた日時に江戸城に行き将軍に挨拶しなければなりません。週に一度は江戸城に行く計算になりますが、駕籠に乗って行列を作っていくわけですからかなり時間もかかります。弘前藩津軽家も19世紀に入るまでは46000石程の中堅外様大名でしたので、数十人の列になったはずですが。当然遅刻は処罰の対象となりますからなおさら江戸城の近くに暮らしました。

津軽家の屋敷も初めは上野山にありました。寛永寺の建立にあたり神田小川町に屋敷を与えられたものの、貞享5年（1688）、詳細は不明ですが突然の本所転居を命じられます。どうも将軍徳川綱吉と弘前藩主津軽信政との間のトラブルが原因とも言われています。信政の三男が養子先の藩主になれるように画策したのが綱吉にバレた結果の移転と言われています。

転居命令から40日後に本所の畑地7000坪以上を与えられました。通常は10万石以上の大名に与えられる面積でした。屋敷の工事が始まったのはさらに3か月後で、工事が完了するまで2年余りを要しました。

なぜか途中で5か月間の中断をはさむという謎の多い津軽家の移転でしたが、元禄4年（1691）の春にすべてが完成しました。その間、殿様や家臣の人たちは向柳原（台東区浅草橋）の別邸から毎日本所へせっせと通った事でしょう。（五味和之）



津軽家上屋敷跡より出土した鬼瓦